

2021年3月14日～3月20日 各家庭でのディポーション用テキスト

[見えない友]

おお 聖なる救い主 見えない友よ
あなたは「われにすがれ」と命ぜられた
移りゆく人の世の どんな場面にも
信仰によってよりすぎる者としてください

いばらのおい茂る荒野の道を
ただひとり歩いていると思うときにも
愛の御声は やさしい声で
「われにすがれ」とささやかれる

たとい世の人々が私を欺いて
友や望みが取り去られようとも
忍耐と偽りのない愛を抱いて
私はなお あなたによりすぎる

信仰と望みがどんなに長く試みられても
これ以上 何を求める必要があろう
あなたによりすぎるたましいは
どんなに安らかで穏やかで満ち足りていることか
シャーロット・エリオット

■不平不満を制する訓練(1/3)

民は……主につぶやいた。主はこれを聞いて怒りを燃やし……。 (民数 11:1)

バナヤンは、「謙遜の谷」で羊を飼う少年の満足している様子を実にみごとに描写している。

彼らは語り合いながら歩いて行くうち、ひとりの少年が父の羊を飼っているのを見つけた。少年は非常にそまつな服を着ていたが、生き生きとした美しい顔をしていた。そして腰をおろして歌っているのである。大勇氏は言った、「あの羊飼いの少年の言っていることに耳を傾けてごらんなさい」。彼らが耳を傾けると、少年はこう言っていた。

低い所にいる者は落ちる心配がありません、
下にいる者には誇りがありません
へりくだる者は常に
神を自分の案内者とします。
私は今、自分の持つもので満足しています、

どれほど多くても少なくても。

そして主よ、私はなおも満足を切望します、
あなたはそのような者を救ってくださるからです。
巡礼に行く人はあんなに重荷を負っています。
いま乏しくても、のちに幸福を得ることこそ
いつの世でもいちばんよいのです。

そこで彼らの案内者は言った。「あれが聞こえますか。私はあえて申しませんが、あの少年は、絹やビロードの服を着ている者よりも楽しい生活を送っており、胸につけている安心草もより多いのですよ。」

このような健全なたましいの態度について、神は、「満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です」と注釈しておられる（1テモテ 6:6）。また反対に、不平不満がどんなに危険であるかについて、聖書に大きく取り上げられている。足ることを知らない信心は大きな損失となりうると推論してよいだろうか。

不平不満は、神の民に約束された臨在を無視する。イスラエルの民は荒野を旅するとき、昼は雲の柱、夜は火の柱によって導かれ（出エジプト 13:21、22）、敵から守られ（14:19、20）、どこに天幕を張りいつ出発すべきかを示された（民数 9:15-23）。それは、契約をお与えになった神のご臨在を保証する、外部的な目に見えるしるしであった。昼も夜も、彼らはただ幕屋の上の柱を見さえすれば、神のご臨在、神が彼らに先だって行かれること、敵に面したときの神の助けを確信することができた。モーセに対しては、「わたし自身がいっしょに行って、あなたを休ませよう」という力強い約束が与えられていた（出エジプト 33:14）。長い荒野の旅路を通してモーセは「目に見えない方を見るようにして、忍び通した」と言うことができる（ヘブル 11:27）。このように神のご臨在をいただいているながら、民はなお不平を言った（民数 11:1）。「彼らは自分たちの救い主である神を忘れた。エジプトで大いなることをなされた方を」（詩篇 106:21）。

【V・レイモンド・エドマン 人生の訓練 第二十二章「不平不満を制する訓練」より】
※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい